「牛に引かれて善光寺参り」（牛：仏様の化身）

これは、「信仰がない者でも信じることで報われるようになり、欲深さも改めることができる」といったお話なのです。「そんなことが本当にあるの？」と思われるかもしれませんが、それが可能なことをこの物語が教えてくれます。

昔々、信濃の国（現在の長野県）善光寺の近くにとっても性根が悪く、ケチで欲深いお婆さんが住んでいました。いつの世にもこんなお婆さんはいるのですね。

お婆さんがある日、川で洗濯をし、軒先で乾かしていましたところ、一頭の牛がどこからともなく現れ、乾かしていた布を角に引掛っかけて走り出したのでした。「わしの布をどこへもっていくのじゃ～」と、ケチケチ婆さんは怒り狂いました。何とか布を取り戻そうと、死に物狂いで追いかけます。牛のスピードにお婆さんの脚力ではなかなか追いつけません。そうこうしているうちに、たどり着いたのが善光寺でした。既に日が暮れてあたりは薄暗くなっていました。善光寺の金堂前で、暗闇に紛れて牛が見えなくなってしまいました。「ああ見失った！」、その直後、落胆するお婆さんを仏様の光明が「カー!!」と照らしました。そして、足元にあった牛の涎（よだれ）を見ると、まるで文字のように浮かび上がってくるではありませんか。お婆さんは、食い入るようにその文字を読みます。そこには、このようなことが書かれてありました。

「 牛とのみ　思ひ過ごすな　仏の道に　汝を導く　己の心を 」

お婆さんは、牛に布を奪われたことのみを怒り、この善光寺まで来ましたが、実は仏様が導いてくださったのだと知ります。すると、今までのケチで欲深い心で生きてきたお婆さんが「すー!!」と心が入れ替わるかのように仏様を信じる心が芽生えるのです。その夜は、善光寺にある阿弥陀如来の前で、念仏を唱えながら朝を迎えたといいます。すごい変わりようですね。人が変わる瞬間って、こういうきっかけだったりするのですね。

布のことなどすっかり忘れてしまっていたお婆さんでしたが、近くの観音堂をお参りした時に、堂内の観音像に布がかけてありました。「あれはわしの布じゃあるまいか？」、紛れもない、牛に持って行かれて必死に取り戻そうとしたお婆さんの布でした。そこで、お婆さんは気付きました。

「牛に見えたものは、仏様の化身だったのじゃ！」

この一件から、お婆さんはますます善光寺の仏様を信じ、お参りし、極楽往生を遂げました。

（善光寺：1707年７月12日完成）

❤ Happy Birthday　７／14‥小林　憲 先生